

# 利用者を限定した情報共有システムの構築

- 研究室共有掲示板を例として -

955048 菊池 浩庸  
(指導教員 速水 治夫 教授)

## 1. まえがき

本研究は、グループ内での情報共有の実現を目標としている。情報を伝達する方法としてはいくつか知られているが、本研究では情報発信者が情報を掲示し、情報受信者が参照する形式を相互に繰り返す方式としている。この方式を採用した理由は、利用者グループを限定したシステムとして、運用していくには最適と考えたからである。

「ホームページを見て情報を得る」というような一方の情報の流れではなく、一つのグループで情報の授受を行うことのできるシステムを作ることが目的としている。そのようなシステムを実際に試作・運用することで、有用性を評価する。

## 2. 試作システム全体の実装内容

### 2.1 必要技術

利用者を限定した情報共有システムに必要な主要技術は以下である。

- 利用者を限定する技術  
(ex. BASIC認証)

情報交換の際に情報を見る権利のある者のみが、情報を閲覧できる。

- 情報交換システム  
(ex. スレッド掲示板、住所登録・検索システム)  
情報の交換をインターネット上で、CGを利用することにより、インタラクティブな情報交換を行う機能。(下図参照)

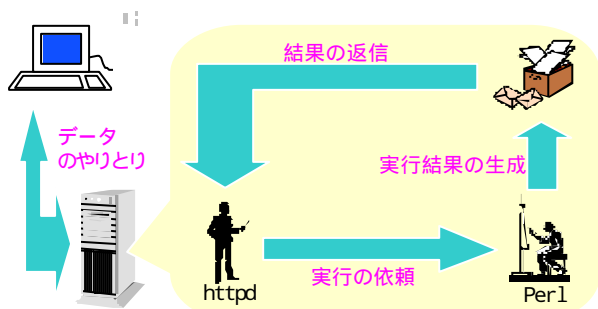


図1 CGを利用した情報の流れ

### 2.2 試作内容

試作したシステムは以下の二つである。

- 住所登録・検索システム
- スレッド掲示板

そのうちの一つ、スレッド掲示板のタイトル画面を下図に示す。



図2 スレッド掲示板(タイトル画面)

## 3. 評価

本システムを、著者の所属する研究室メンバーに使ってもらった結果、グループ内で必要とする情報共有の場として、また、ユーザの負担という点から見ても、有用であるという評価を得られた。

## 4. まとめ

著者の所属する研究室メンバーを対象とした、情報共有システムを構築し、実際に研究室で運用した。その運用を通じて、有用性を確認した。具体的にはBASIC認証を利用してプライベートな環境を作り、住所登録・検索システムと、スレッド式掲示板をその環境で動作させた。

これからの課題として、システムを構成しているコンテンツの改良、その他、必要であるコンテンツの新規作成、また、情報の伝達方法の研究および、今回使用した情報伝達方法と、他の方法との比較検討が残っている。